

事務局からの寄せ書き

機械力学・計測制御部門の活動を、強かにサポートして頂きました、歴代の担当事務局のみなさまに、お言葉を寄せて頂きました。

機械力学・計測制御部門の創立 30 周年、誠におめでとうございます。
当時、私は生まれたばかりの乳呑み児でした。
30 年前というと、とてもとても気が遠くなるほど（乳児は記憶もないですが）昔のことのように感じます。
機力部門はその規模から、事務的にも大変な部門と聞いておりましたが、実際に担当させていただくと、どの現場でも部門の皆様には温かく優しく接して頂いて、楽しくお仕事をさせていただいています。
まだ入職して 4 年、機力部門を担当させていただいて 2 年の未熟者ですが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

（総合企画グループ 橋口公美 担当期間：2015 年度～現在）

部門創立 30 周年、誠におめでとうございます。
機力は入社して初めて担当させていただいた部門で、私のような新米に務まるのかどうか当初不安でありました。
そのような中、なんとか任期を終えることができたのも、部門の皆様の温かいお力添えのお陰であり、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。
このような機会をお与え頂き、身に余る光栄ですが、部門への感謝や思い出はいくら紙幅があっても書き尽くせませんので、ここでは私が担当致しました D&D を振り返らせて頂きます。
D&D2010 同志社大学
初めて参加した D&D で規模や期間の長さ（夏の学校もまだありました）に圧倒されました。京田辺の夏は暑く、常に蚊に悩まされました。
D&D2011 高知工科大学
企画当初から担当させて頂いた初めての D&D で、講演募集中に東日本大震災が発生しました。何とか参加者を集めようと、実行委員の皆様には様々な企画をご検討頂き、震災後とは思えない活発な行事でした。

D&D2012 慶應義塾大学

講演会の活性化を目指し、細分化した OS の再編が検討され、領域という形で再構成されました。スポーツに関連した市民向けの体験講座など、横浜の地域性を生かして運営されていたのが印象的でした。

D&D2013 九州産業大学

D&D に加え MoViC に日韓シンポが併催されました。これだけの行事を同時に運営できるかどうか不安でしたが、現地実行委員会に強力なサポートを頂き、盛況のうちに終えることができました。

D&D2014 上智大学

事務局の最寄り駅からまさに隣駅にある上智大学で、D&D を開催することになるとは思ってもいませんでした。実行委員会とは密に連携させて頂き、若手活性化委員会の企画した若手研究者 & 学生懇親会にもポスターを展示し、担当最後の D&D はとても思い出深いものとなりました。

部門の一大イベントである D&D は実行委員会はもちろん、運営委員の方々、学生スタッフのみなさん、その他ご関係する大勢の方々のご協力があつて成し遂げられたものと改めて実感しております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。また D&D だけでなく、その他多くの講演会や講習会といった行事や、表彰や広報のような部門運営につきましても多くの方々にご尽力を頂きました。事務局としてお手伝いできることは甚だ少なく、ご不便をお掛けしていたのにも関わらず、全く嫌な顔をされずに温かくサポート頂きましたことには感謝の言葉もございません。末筆ながら部門の益々のご発展をお祈り申し上げます。【了】

（総務グループ 大竹英雄 担当期間：2011 年度～2014 年度）

2005 年～2010 年の 6 年間機械力学・計測制御部門を担当させていただきました。

特に D&D は部門の中の一大イベントなので、いずれも深く印象に残っています。

・2005 年 D&D：朱鷺メッセ 教材が現地に届かずかなり焦りました！初めての D&D でかなり緊張しておりました。

・2006 年 D&D：名古屋大学 講演論文集に誤植がみつきかなり焦りました！期間中は大変な猛暑でした。

・2007 年 D&D：広島大学 会場がとても広く、迷子になりかけて焦りました！期間中は大学内に宿泊し、移動が楽でした。

・2008 年 D&D：慶應義塾大学 アルバイト代の現金が足りなくなりそうになり焦りました！草津の湯を堪能しました。

・2009 年 D&D：北海道大学 J-K Sympo 参加者のお弁当がなかなか届かずかなり焦りま

した！ジンパを楽しみました。

・2010年D&D：同志社大学 駅から会場までの坂道がきつく、焦りました！ハモを堪能しました。

なぜか焦った記憶が多いのですが… いずれも本当に良い思い出です。

機械力学・計測制御部門のますますの発展をご祈念いたします。

（総合企画グループ 課長 小阪雅裕 担当期間：2005年度～2010年度）

「機械力学・計測制御部門創立30周年につきまして」

この度の機械力学・計測制御部門創立30周年につきまして、一言述べさせていただきます。

思い起こせば、機械力学・計測制御部門（以下、機力部門）とは、1992年、自身が30歳の時に日本機械学会（以下、本会）へ入職した時から関わらせていただいております。

直接の部門担当ではございませんでしたが、国際交流担当という職務上、機力部門企画によるMoViC（1992年開催）という国際会議を担当させていただき、背戸一登委員長をはじめとする機力部門の委員の方々と一緒にお仕事をさせていただきました。その後、2nd MoViC（1994年開催）では故吉田和夫委員長をはじめとする同部門委員の方々と、3rd MoViC（1996年開催）では野波健蔵委員長をはじめとする委員の方々とご一緒させていただきました。

機力部門の担当としては、2002年から3年間だけ担当させていただきましたが、上記の経緯もあったため、とても初めて担当する部門とは思えないほど親近感があり、部門関係者の方々には本当に親しくしていただいたことを覚えております。また、印象としては、大きな部門ではありますが、とても活気があり、皆さま協力的で組織力のある部門であったと感じておりました。

当時、近藤孝広部門長（2002年度）、木村康治部門長（2003年度）、水野 毅部門長（2004年度）をはじめとする機力部門の委員の方々には大変お世話になりました。

本会における自身の在職年数は25年ですので、創立30周年を迎えられる機力部門は、自身の先輩でもあり、自身の歴史でもあります。今後も中心的な基盤分野として、本会活動にご協力を賜われますよう何卒お願い申し上げます。

（一般社団法人日本機械学会 事務局長 高橋正彦 担当期間：2002年度～2004年度）

編集後記

部門史編纂委員会幹事

丸山 真一(群馬大学)

本部門は、30年にわたり、多岐の分野にわたり、アクティビティの高い活動がなされてきたため、非常に多くの先生方に原稿をお願いすることになりました。また、複数の研究会や国際・国内会議でご活躍されている先生には、最大で5件ほどの原稿をお願いすることになり、本当に申し訳ない思いでした。本務、学会活動ともお忙しい中、多くの先生方から原稿執筆をご快諾いただきました。ご多忙中のところ貴重なご寄稿を頂いた執筆者の皆様に、厚くお礼申し上げます。

編集の都合上、私が最初に原稿を読むことができました。部門活動への熱い思いから、思わず吹き出してしまうようなエピソード、皆で活動を盛り上げていった経過など、多彩な内容の原稿をいただき、機械力学・計測制御部門のもつ熱く、暖かい雰囲気を変えて認識しました。また、これまでの部門活動や研究動向を振り返りつつ、この先の部門の在り方へのアドバイスや、中堅・若手研究者への示唆に富んだ原稿も多くいただき、私自身考えさせられる内容が多くありました。

編集後記を書きながら考えていることが一つあります。次の部門史編纂は、いつになるのでしょうか？30年後ではなく、もう少し早めの方がいいかもしれません。その頃の部門活動はどのようになっているのでしょうか？私自身、原稿依頼を頂くことができ、きちんと部門への貢献が記事に書けるよう、精進しなくてはいけないと思っております。

部門史を作成しよう、とのご提案があったとき、「それは素晴らしいことだな」と他人事のように気軽に考えておりました。まさか自分が部門創立30周年目の年度の部門幹事を仰せつかっていたのだとは、気づくこともなく…。そのような、ほとんどゼロからのスタートでしたが、無事に公開に至ることができたのは、第94期部門長・部門史編纂委員会委員長 河村庄造教授(豊橋技術科学大学)をはじめ部門史編纂委員会メンバーの先生方のご尽力と、事務局 橋口様の強力なサポートによるものです。ここに厚く御礼申し上げます。

本部門史が、これまでの部門活動を振り返り、これからの部門活動を活性化させるお手伝いに少しでもなれば、編集に携わったものとしてうれしく思います。

部門史編纂委員会委員一覧

- 委員長 河村庄造(第94期部門長)
副委員長 田川泰敬(第94期副部門長, 企画委員長)
幹事 丸山真一(第94期部門幹事, 総務委員長)
委員 成川輝真(第94期総務副委員長, 企画委員会幹事)
岩本宏之(第94期広報委員長)
本田真也(第94期広報副委員長)
林 隆三(第94期表彰委員長)
木村弘之(第94期表彰副委員長)
岡 宏一(第94期国際交流委員長)
白石俊彦(第94期国際交流副委員長)
神谷恵輔(第94期資格認定委員長)
事務局 橋口公美